



ふるさと教育「子どもたちが描くまちづくり」

北中山小の取り組みを紹介します！



牧野市長や地区の委員会の皆さんに、まちづくりプランを発表する児童たち

同校では、4年前からふるさと教育に取り組んでおり、県教育委員会が本年度から始めた「地域と進める体験推進授業」のモデル校に指定されました。6年生は昨年7月に牧野市長から市が取り組んでいるまちづくりについての講義を受け、自分たちが住んでいる「鯖江市」がどれだけ素晴らしく、国内外から注目を浴びているまちかを知ることによってまちづくりへの思いを強めました。

そして、6年生29人は4月から総合的な学習の時間を使い、「北中山まちづくり委員会」を中心とした地域と一体となってまちづくりのアイデアを練り上げてきました。7月にはその成果を牧野市長に提案。地元の伝統野菜の「川島ごぼう」にちなんだゆるきやら「川島ゴッホー」や地区内にスキーができる森林公園の整備など、発想力豊かなプランが盛りだくさんでした。

8月6日に地区で開かれた「夢まつり」でプランは実現しました。児童たちが企画した地元の魅力を叫ぶ「大声コンテスト」が行われ、住民のふるさとへの熱い思いが会場に響き渡りました。

また、8月30日にはプランに沿って児童たちが考案した、市と北中山地区のシンボルマークを牧野市長に提案しました。市のマークには眼鏡や漆器、さらにツツジやレッサーパンダといった市の魅力をデザイン。地区のマークも、住民が1万本植栽計画を進めているアジサイをモチーフに、地元野菜や地区にそびえる三峯山を描きました。牧野市長の喜ぶ顔を見た児童は「これからもまちづくりに取り組みたい」と笑顔で話していました。

若い力で我がふるさとを元気にしていく、そのためには、小さい頃から自分の住んでいるまちのいいところを知り、それをどう生かすと楽しくなるかといったことを考える力をつける学習は大切ですね。「住んでいる」から「住み続けたい」に思いが膨らむ時が来るはず。ふるさと教育で児童たちの笑顔に未来への希望が見えたように感じました。



考案した市のシンボルマークを牧野市長に渡す児童たち



ふるさと散歩

鯖江の近代史と歩兵第三六連隊 (十)

徴兵検査と軍備拡張

近代的軍隊創設のため徴兵令が公布されると、満二〇歳に達した男子は徴兵検査が義務付けられました。身長・体重・病気の有無等が調べられ、極めて頑丈で健康体の者が甲種、以下、乙・丙・丁・戊種に振り分けられました。そして、「甲種合格」者のうち籤で選ばれた者から各地の連隊に入営することになったのです。

さて、入営者は三年間の現役兵時代を経て、五年の予備役、一〇年の後備兵役の期間を過ごし、約二〇年間に渡って兵役に服しました。一方で、甲種合格であっても籤外れの者や乙種の者は今まで通りの生活を送りながら、補充兵として兵役期間を過ごしました。当初、徴兵制度に対する国民の抵抗は根強く、一揆や徴兵逃れが横行していました。また、入営者も一〜二割程度に止まっていたが、日清戦争の勝

利やロシアの脅威の接近によって戦争ムードは高まり、軍備拡張も相まって入営者の数は次第に増加していきました。

(文化課 藤田 彩)

